

## 施肥量と水稻「キヌヒカリ」の食味

### [研究のねらい]

一般に白米のタンパク含有率が高いと食味が低下するため、米の食味には施肥量が大きく影響します。ここでは、和歌山県の主要品種である「キヌヒカリ」について施肥量が白米のタンパク含有率および食味に与える影響を検討します。

### [研究の成果]

施肥量を3水準（表 1）、栽植密度を㎡当たり 15.1 株、18.5 株、23.8 株の3水準としました。

- ①白米タンパク含有率は施肥量が多いほど高くなります（図1）。
- ②白米の食味は施肥量が多いほど低くなります（図1）。
- ③栽植密度は白米のタンパク含有率や食味にほとんど影響しません（図1）。

### [成果の活用面・留意点]

- ①米の食味には施肥量以外にも収穫時期、収穫後の保存状態なども影響します。施肥量が同じでも、施肥時期等により食味に与える影響は異なります。特に穂肥の遅れや過多は食味を低下させます。

表1 試験区の施肥量(Nkg/10a)

試験区	基肥	追肥1回目	追肥2回目	合計
少肥区	3.0	1.5	1.5	6.0
標準区	5.0	2.5	2.5	10.0
多肥区	7.0	3.5	3.5	14.0

注) 追肥1回目: 出穂前22日、追肥2回目: 出穂前12日

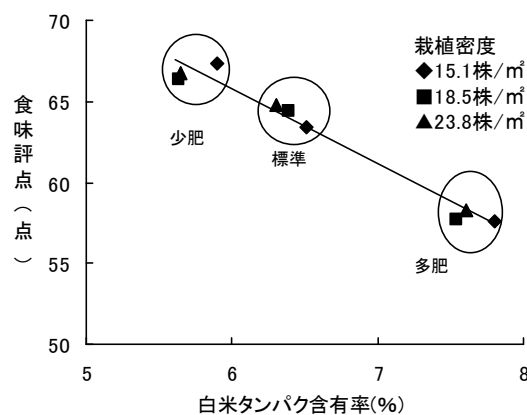


図1 白米タンパク含有率と食味評点の関係

注) 近赤外分析装置ニレコ6500での測定値

実施年度：平成 13～15 年度

担当者：宮本芳城、川村和史、浅井良裕、森本哲矢